



市長日記

中国電力へ要請

中国電力島根原発2号機の再稼働について同意する回答書を、3月28日に島根県へ提出しました。また、同日に中国電力に対し、島根原発2号機に関する市からの意見が適切に反映されるよう要請しました。

市としては、市民の安心と安全を確保するよう関係各所へ働きかけるとともに、防災対策にしっかりと取り組んでいきます。



▲島根原子力本部長（左）へ要請する田中市長。



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



まちの話題や
出来事を
紹介します

たうんとぴっくす

TOWN TOPICS

今月の1枚



個性豊かな年賀状作りを目的に開催された「第19回全日本年賀状大賞コンクール」。版画部門で、比田小1年生の藤原綾乃さん（左）の作品が奨励賞、認定こども園比田の小林瑛多さん（右）の作品が審査員特別賞を受賞しました。 3月17日：比田交流センター



▲右から石原社長、大西ディレクター、田中市長、秦教育長。DVDは10枚組で全64話を収録。

やすぎどじょっこテレビが3月25日、開局10周年を記念して「安来人物伝」（同局制作番組）を収録したDVDボックスを安来市に寄贈しました。

この番組は産業、文化、芸術などさまざまな分野で活躍した安来にゆかりの偉人を紹介。郷土の先人の熱意と努力の足跡を伝える内容となっています。

ディレクターの大西友子さんは「市内小中学校のふるさと学習に役立ててもらいたい。番組を通じて安来の良さを再認識してもらい、郷土への誇りと愛着を深めてほしい」と話していました。

郷土愛の一助に

瑞光山 清水寺を訪れる参拝客に愛されている安来の名菓「清水羊羹」が、文化庁の「100年フード」に認定されました。市内の清水羊羹製造業者が3月15日に市役所を訪れ、田中市長に報告しました。

この取り組みは、歴史が浅いことなどから認定されていない文化財を掘り起こそうと令和4年からスタート。世代を超えて受け継がれ、長く愛されてきた食文化を継承するために、認定を行っています。

深田聡さんは「今後も地元で愛されるよう、伝統製法を大切にしていきたい」と話していました。



▲清水羊羹製造業者の代表者の皆さん（左から遠藤瑞泉堂、西村堂、深田豊隆堂、黒田千年堂）。

清水羊羹を後世に



産官学で協働連携

▲協定書を持つ各代表者の皆さん。(左から田中市長、安来商工会議所中田副会頭、安来市商工会藤原会長、島根県立大学清原理事長兼学長)

島根県立大学と安来市、安来商工会議所、安来市商工会の4者が3月11日に、地域の課題解決や人材育成などを目的とした包括的連携協定を締結しました。産官学が協働しながらお互いの強みを活かした取り組みが行われることとなります。

県立大の清原正義学長は「県内就職率を高めるためには県内企業のことを知ってもらうことが大切。県内就職をして、島根に愛着と誇りを持つ学生を育てていきたい」と話していました。今後、市内施設を活用したサテライトキャンパスを開設予定です。

公益社団法人国土緑化推進機構が主催する全日本学校関係緑化コンクール(学校林等活動の部)で赤屋小学校が最高賞となる特選に選ばれました。同校では校舎近くの学校林を活用して、子どもたちが保護者や地域の人々と一緒に環境整備や自然環境などを学習。学校創立から続けるこうした取り組みが高く評価されました。

6年生の川上真穂さんは「協力していただいた皆さんや先輩方のおかげで受賞できました」と感謝の言葉を述べました。



学校林活動で特選

▲3月8日には記念植樹を行い、関係者とともに受賞を喜びました。

日本の全国各地に伝わる民謡や伝統芸能を全国に紹介する「民謡魂 ふるさとの唄」の公開収録を3月6日、アルテピアで開催しました。

番組のオープニングでは、安来節保存会の皆さんが安来節の唄や銭太鼓を披露。銭太鼓のリズミカルな音と技で番組を華やかに演出しました。この番組はNHKが収録。観覧申込み総数は498通で当選倍率は3.6倍という人気ぶりでした。

保存会の一宇川耕二さんは「番組を通じて安来節をPRできてうれしいです」と話していました。



伝統芸能を再発見

▲安来節のほか、全国各地に息づく郷土の唄が披露されました。



両参りで福を呼ぶ

▲御朱印が貼られた台紙を持つ3人(右からしみずたにせんぎょう 清水谷善暁さん、ふかださん、醍醐さん)。

市内の名刹「瑞光山 清水寺」と「瑞塔山 雲樹寺」を両参りして福を呼び寄せる観光企画「鬼と天女の福めぐり」が3月25日にスタートしました。

外からの邪気を払う清水寺の「鬼大師」と内へ幸福を呼ぶ雲樹寺の「天女」という両寺院のキャラクターが題材。秋頃までの期間限定の御朱印と数量限定の台紙(宇賀荘地区出身のデザイナー ふかだあきこさんがデザイン)が両寺院で販売されます。

雲樹寺の醍醐靖幸住職は「まちが元気になるきっかけになるとうれしい」と話していました。